

①評価結果の総括

- ・目標に対して、全体的には、着実に業務を実施している。
- ・GCOM-W「しずく」のデータ利用の拡大、若田宇宙飛行による国際宇宙ステーション(ISS)コマンダーへの就任など、いくつかの特筆すべき成果を挙げた。
- ・今後の中期計画の達成にむけて、一部のものについてはより積極的に進めることが望まれる。
- ・より一層の政府の宇宙政策(宇宙利用の拡大、自律性の確保)との一体性確保及び宇宙産業基盤の維持発展に向けた活動が望まれる。

②平成25年度の評価結果を踏まえた、事業計画及び業務運営等に関して取るべき方策(改善のポイント)**(1)事業計画に関する事項**

- ・ JAXAはプロジェクト・マネジメント体系の整備、そのための標準の定型フォーマットを開発し、JAXAとの取引を行う企業とも共有・使用すべき。
- ・ 宇宙インフラのメンテナンス標準化、メンテナンス人材の育成方法について、JAXAが国際的なリーダーシップを発揮すべき。
- ・ 「みちびき」に対応したチップの製造の拡大など、利用の拡大をさらに進める必要がある。
- ・ 液体燃料ロケットと固体燃料ロケットを合わせた基幹ロケットによる柔軟な衛星打ち上げへの対応、また、国際競争力の観点から、イプシロンロケットの最終的な形態とその用途の明確化に向けた検討を早急を実施すべき。
- ・ 昨年まとめられた「宇宙科学探査ロードマップ」が、大学研究者等の宇宙科学探査コミュニティーからのボトムアップの提案によって実現されるよう、JAXA内の仕組みを強化すべき。
- ・ 産業振興に関し、民間企業にどれだけの利点や利益があったのかという評価、また、産業振興関連の事業に関する民間の意見の反映が必要である。

(2)業務運営に関する事項

- ・ 国民及び諸外国、特にアジア太平洋地域の人々がJAXAの活動に関心を持つよう、また、女性や高齢者への働きかけを進めるべき。

(3)その他

—

③特記事項

—